

CASBEE京都-新築(2011年版)
(仮称)ローズライフ京都

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	評価点		重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質									2.9	
Q1 室内環境									3.0	
1 音環境						3.0	0.15	2.6	1.00	2.8
1.1 騒音						3.0	0.40	3.0	0.40	
1 室内騒音レベル						3.0	1.00	3.0	1.00	
2 設備騒音対策						-	-	-	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	2.1	0.40	
1 開口部遮音性能						3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.60	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						1.0	-	2.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						1.0	-	1.0	0.20	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境						2.6	0.35	2.6	1.00	2.6
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57	
2 負荷変動・追従制御性						-	-	-	-	
3 外皮性能						3.0	0.25	3.0	0.43	
4 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御						-	-	-	-	
6 個別制御						-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-	-	
8 監視システム						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						3.2	0.25	3.0	1.00	3.1
3.1 昼光利用						4.2	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率				●自然	A(全国版準用)	窓面を大きく確保した居室とした。	5.0	0.60	5.0	0.60
2 方位別開口						-	-	1.0	-	
3 昼光利用設備				●自然	B(推奨内容)		3.0	0.40	3.0	0.40
3.2 グレア対策						3.0	0.30	3.0	0.30	
1 照明器具のグレア						-	-	-	-	
2 昼光制御				●自然	B(推奨内容)		3.0	1.00	3.0	1.00
3 映り込み対策						-	-	-	-	
3.3 照度						2.0	0.15	1.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気環境						3.6	0.25	3.3	1.00	3.5
4.1 発生源対策						4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質						F☆☆☆☆品を使用する。	4.0	1.00	4.0	1.00
2 アスベスト対策						-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等						-	-	-	-	
4 レジオネラ対策						-	-	-	-	
4.2 換気						2.0	0.30	2.3	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				●自然	A(全国版準用)		3.0	-	3.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.50	1.0	0.33	
4 給気計画						-	-	-	-	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御						2階以上の各階に喫煙室を設置している。	5.0	1.00	-	-
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.1
1 機能性						3.0	0.40	4.2	1.00	3.4
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性						3.0	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画				●大切	D(独自基準)		3.0	1.00	-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観				●とも	C(独自加点)		3.0	-	3.0	0.50
2 リフレッシュスペース						3.0	-	-	-	
3 内装計画				●自然	D(独自基準)		3.0	1.00	3.0	0.50
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.31	-	-	3.1
2.1 耐震・免震						3.0	0.48	-	-	
1 耐震性						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				●大切	A(全国版準用)		3.0	0.23	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性					3.6	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			節水器具を採用し、水槽を分離設置している。	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備			非発を設置し、浸水による停電回避措置を講じ	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			通信手段を多様化し、水損を防止している。	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					2.8	0.29	2.4	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり					3.0	0.31	1.8	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					2.6	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		1.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.4
1 建物の熱負荷抑制					2.3	0.30	-	-	2.3
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光発電を設置している。	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					4.8	0.30	-	-	4.8
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=32.4%	4.8		-	-	
集合住宅の評価					4.0		-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護					3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水			省水型機器を採用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.3	0.63	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	地域産木材を採用している。	4.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上げ材を分離容易にしている。	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.6	0.22	-	-	2.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆建材使用に努めている。	4.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避				2.0	0.68	-	-	
1	消火剤			スプリンクラーのみ	-	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33	-	-	
3	冷媒				3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮					3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮					2.9	0.33	-	-	2.9
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	0.33	-	-	
2	振動				3.0	0.33	-	-	
3	悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2	風害、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる